

作物名 **さやえんどう** (マメ科)

J A 2022 版

標準作型

○印・播種 □印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露 地			→	□						○	→	

栽培のポイント

酸性に弱いのでかならず苦土石灰を早めに施して矯正する。また日当たりが悪いと着果が悪くなる。連作に弱い野菜の代表的なものなので4~5年は同じ畑での作付けはしない。

畑の準備と元肥

苦土石灰 (10kg/a)、堆肥 (100kg/a) は土になじむように、種まきの少なくとも1月以上前に畑全体に施して、根が深根性のため伸びやすいように深く耕す。
元肥は定植2週間前までに施しておく。
うね幅60センチ、うね間100センチで高さ20~30センチ程度のベッドを作る。

播 種 (種まき) 株間は30センチで、1穴に4粒ずつ、播種をする。早まきは寒害に注意する。
覆土は厚すぎないよう2~3センチ程度とする。11月に入ってからの方が樹勢は長持ちする。

間引き 草丈7~8センチのころ、込んでいるところや、育ちの悪いものを除き、2本立ち(苗)にする。
育苗して本畑に移植する場合、草丈10センチくらいにしてから、畑に植えだす。
厳寒期には敷きわらなどで株元を保護しておく。

支柱立て 誘 引 草丈が10センチ位になったら、ネット・竹等に巻きひげを絡ませる。
草丈の伸長に合わせて枝のずり落ちを防いでおく。

追 肥 1回目は結莢開始期、2回目は収穫中期に行う。

収 穫 開花後15日程度で収穫できる。子実の肥大が目立つ前に果柄をハサミで切って収穫する。
絹さや系品種は莢の長さが約7センチ、大莢系品種は約10センチが目安。
スナップ系品種は、子実が肥大して、莢色が鮮緑色のうちに収穫する。
実がなり始めたら、サヤエンドウは早めに収穫する。収穫遅れは収穫量に影響する。

肥料施用量

(1 a 当たり使用量)

肥 料 名	ジアン有機化成 S806号	燐硝安加里 S646号	施 肥 時 期
元 肥	4 kg		定植2週間前
追 肥		2 kg	結莢開始期 収穫中期